

カルメル

霊性センターニュース



神の御母　ウラジュミル

2017年1月

327号

目次

年頭のご挨拶	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	2 1
東京	2 2
京都	2 5
名古屋	2 6
北陸	2 7
諸所の企画案内	2 9
年間購読(郵送)のご案内	4 0
編集後記	4 1

2017年 年頭のご挨拶



主のご降誕の喜びの内に 新年のご挨拶を申し上げます

昨年も、一年間、『靈性センターニュース』をご購読くださり、まことに有難うございました。読者の皆様に心から御礼を申し上げます。

ところで、内外の政治情勢は、福音的なものの見方、生き方からますます離れていくような印象を受けないでしょうか。自国を第一とし、他国や他民族や他文化を排除していくことは、ファシズムや全体主義国家に共通して見られる現象です。最近のISやイスラム過激派の考えも似たり寄ったりでしょう。そこでは、敵味方が国籍や人種や宗教や思想などで峻別され、その違いによって、多くの人々が虫けらのように殺されて行きます。皆自分と同じ一人の人間であることが忘れ去られて行きます。そこに支配しているのは、実に短絡的で子供じみた、好悪の感情、動物的なものの見方ではないでしょうか。

昨年、全世界のカトリック教会は「神のいつくしみの特別聖年」を過ごしました。「王であるキリスト」の祭日をもって閉幕いたしました。それは、フランシスコ教皇がおっしゃったように、私たちにとって、新たな出発点となるべきものです。神のいつくしみを私たち自身が深く悟り、それを教会、家庭、学校、職場において生きることにより、まだキリストに出会っていない多くの人々に、神のいつくしみを宣べ伝えていくことが、分裂と争いの絶えないこの世界において、私たちキリスト者に託されている使命ではないでしょうか。

カルメルのこの手作りの冊子が、そのために少しでもお役に立てれば幸いです。今年も種々の記事と、黙想会や祈りの集い等の企画案内を、みなさまへお届けいたします。

2017年が、神のいつくしみに満たされた御年となりますように。

編集長

パウロ 九里 彰神父

心の泉





第三卷

第三章 神のみことばは、謙虚に聞かなければならない、

しかし多くの人はそれを重んじない

6 敬虔を願う祈り

あなたのあわれみと恵みと慰めがなくて、この悲しい世を、どうして私が生きられるでしょうか？主よ、み顔をそむけないでください。あなたの訪れの時を延ばさず、慰めを取り上げないでください。さもなければ、私は渴いた地のようになるでしょう（詩編143・6参照）。主よ、あなたのみ旨をおこない、み前にへりくだって正しく生きる方法を教えてください（詩編143・10参照）。あなただけが、わたしの知恵そのものです。あなたはこの世が創造され、私が生を受けるより早く、私のことをご存知でした。

第四章 神のみ前に、謙虚に真実に生きなければならぬ

1 主

子よ、私にならって、真理の道を歩みなさい。単純な心で、つねに私を探し求めなさい。私にならって真理の道を歩む者は、悪魔に襲撃される時には守られ、真理によって、誘惑者と悪人のざん言とから守られる。真理があなたを解放するその時こそ、あなたはまことの自由を得、人間の空しい言葉を気につけないようになるであろう（ヨハネ8・32参照）。

神の母の祝日ではじまる

新しい年のお慶びを申し上げます



新しい年にあたり最近列聖されたカルメル会修道女三位一体の聖エリザベットとカルメル会士福者マリー=ユージェンヌ神父の言葉をお送りします。

カルメルの深い霊性が今年も多くの
人々の支えとなりますように・・・

私たちが聖化され、さらに主と一致するために主が来られるこの新しい年に、心の中で主が栄えられますように。そして他の被造物から離れてひとり主ととどまり、主が真に王とされますように。私たちは消え去り、自分を忘れ、使徒の美しい表現によれば、「栄光の賛美」となるように努めましょう。 三位一体の聖エリザベット*

キリストの神秘体に危険が迫り、弱さのどん底にあった時、または、外的にも特別の介護を必要とする病人のようになった時、教会は本能的に母の方に目を向けました。いいえ、むしろ神秘体である教会が母を呼び求める前に、聖母はあらゆる危険に対し、援助の手をさしのべようと待ち構えておられました。

福者マリー=ユージェンヌ神父*

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ



* 『三位一体のエリザベット いのちの泉へ』伊従 信子 ドンボスコ社

* 『いのちの道をゆく マリー・エウージェンヌ神父とともに』伊従信子編著、聖母の騎士社

人を赦す (37)

くのり 彰

「人を赦す」というテーマで、あれこれと話をしてきたが、話が堂々巡りとなってきたので、そろそろ終わりにすべきかもしれない。ともあれ、人を赦すことができないのは、赦すことができないことをした人の側の問題というより、赦すことができないと感じている人の側の問題であることに変わりはない。

①「他の人は赦しても、私は断じて、永遠に赦さない」というのも一つの態度であり、②「回心して償いをし、頭を下げ、謝りに来るならば、赦す」というのも一つの態度である。③「回心し償いをするならば、謝りに来なくとも、赦す」というのも一つの態度であり、④「回心するならば、償いをしなくとも、謝りに来なくとも、赦す」も一つの態度である。最後に⑤「回心せず、償いもせず、謝りに来なくとも、赦す」というのも一つの態度である。

条件をさらに加えれば、さらに複雑となるが、赦しという観点から見れば、①は無条件の断罪、②～④は条件付きの赦し、⑤は無条件の赦し、とすることができる。また正義の観点から見れば、①～④は正不正の次元に立ち、相手を裁いているのに対し、⑤は正不正の次元を超えた、先取りして言えば、信仰の次元から相手を赦していると見なすことができる。

この世（地）においては、社会生活を送る以上、正不正を問題にせざるを得ない。一般には、法治国家として法を遵守することが正義であり、それを破ることが不正であるが、いまだ法として定められていなくとも、人の言動の正不正を問うことができる。自己の良心、あるいは神の心（天）に従っているか否かという基準である。

「人を赦す」ということから言えば、神の心は、上述の⑤無条件的赦しである。決して正不正をどうでもよいものとするのではなく、そのことを絶えず問題にし、人を裁いている人間の地平（地）から、すべての人を慈しみ愛している神の地平（天）へと超越し、そこから人間の地平を生きるということであろう。

あなた方も聞いている通り、「隣人を愛し、敵を憎め」と命じられている。しかし、私は言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなた方の天の父の子となるためである。（マタ 5・43）

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (109)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

召命に対する誘惑(3)

この話を聞く前までは、修練者の孤独への望みはいやがおうにも燃え上がり、ほとんどそれを実行する決心を立てていました。しかし、ヨハネ神父の最後の言葉で、その誘惑は断ち切れ、まったく穏やかで落ち着いた心となったのです。

このようにヘロニモ修士は、ある供述において語りました。他の供述では、教会裁判所の人々は、「その修練者を知っていたのか、彼と付き合っていたのか、彼は会にとどまったのか、どのようにこのことを知ったのか言うように」彼をせかしました。彼はこう答えました。「私がその修練者です。言ったことが彼に起こりました、と私は言いました。このようにその他のことも答えました。このことについては、今までだれにも話しませんでした」。

教えに関する啓示

完徳に向かう望みを助けてくれるかのように思われる誘惑について、十字架の聖ヨハネの教えの正確なところを知ろうとするならば、おそらく、もっぱら快不快によって動かされるままになっている人々——彼らは、生活（人生）の中で働き、私たちが動かしていなければならない真実の道理や理性的対神的な動機に注意を向けることをしません——の気まぐれ（移り気）に関する聖人のほとんどすべての教えに触れなければならないでしょう。また彼が、「信心の場所や事物に関する感覚的な快（楽しみ）に夢中になっている人々が陥るいくつかの弊害について」次のように書く時、問題を信心や召命の次元へと導いています。

「…この欲望は移り変わりの激しいもので、このような人は、一つの場所にじっとしていることもできず、またしばしば心の状態が変化し、今この場所にいたかと思うと、次には他の場所に移っている。今この隠遁所にいるかと思うと、次には他のところにいる。今この聖堂を整えていたかと思うと、次には他の聖堂の方を手掛けている。

(続く)

神の母聖マリアの祭日

(ルカ2：16～21)

「マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思いめぐらしていた。」

新年の最初の日、喜びのうちに神の母聖マリアの祭日をお祝いします。同時にイエスの聖名の祭日をお祝いします。8日目に幼子は割礼の日を迎え、天使から示されていたようにイエスと名付けられたと聖書にあります。マリアは私たちの信仰、希望、祈りのお手本です。マリアは神の母としての自分の役割を受け入れることで、世の終わりまで私たちと共にいてくださるご人性を持つ神を世界に与えてくださいました。羊飼いは、全ての人に福音の中で天使が示したイエスの誕生というよい知らせを伝えています。マリアは心の中にこれら全てを納めます。福音は、この幼子に神ご自身の選ばれた名前が付けられたと語っています。

神の母聖マリアの祭日はクリスマスの祭日と密接に結びついていて、マリアの祭日のうち最も古く、最も重要なものです。神の母となるという巡礼の源に基づいています。「女性から生まれた」神の息子であるイエス・キリストは、私たちを罪から救い出し、神の子供とするために来られました。キリストはマリアの息子であり、キリストの母であるマリアは世界にキリストの祝福をもたらす手助けをします。マリアは「真に神の母であり贖い主の母であり、神に受動的に結びつけられたのではなく、信仰と従順を通して救いの業に自由に協力します。神の手の受動的な道具ではなく、むしろ開かれた生命として母性に新しい広がりを見出し、受け入れました。神の母聖マリアの荘厳な儀式はクリスマスのちょうど1週間後に祝われます。キリストの誕生に続いてイエスの母としてマリアを崇めることは適切なことです。イエスの誕生の物語は、割礼と命名の儀式で完成します。割礼と命名の儀式はイエスを正式にユダヤ民族と神の選民に組み入れます。私たちはここに神が神秘的ななさり方で働かれるのを見ます。

本日、私たちは神の母として祝された乙女マリアの偉大さについて内的知識と理解をもって、新しい日、新しい年を始めます。始めにお互いに挨拶します：「主があなたを祝福し守ってくださいますように；主があなたの上に御顔を輝かせ、慈しみを与えてくださいますように；主があなたの上に顔を上げ、平和を与えて下さいますように。主の平和が私たちの家族と共同体の中に留まり、来たる年に喜びと幸福をもたらしてくださいますように。神の御名が祝されますように、生命と暖かさが与えられますように。神の慈しみが新しい年を通じて私たちお互いに留まりますように。

イエス・キリストにおける親愛な兄弟、姉妹の皆さんへ

「2017年、新年おめでとうございます。」

(Sr. Paulina)

主の公現

学者たちの贈り物は、イエスの人生と神性と王位を象徴し、私たちがキリスト教的行動へと招く

御公現のお祝いは神が異邦人に示されたことを記念します。この神の提示は、東方からの賢者たちがベツレヘムにやって来て、新たに生まれたユダヤ人の王に敬意を表し、贈り物をした時に始まりました。占星術の学者たちはユダヤ人が信じる真の神を知らない異教徒でしたが、真の神は彼らに、ユダヤ人に約束していた王、期待されていた王子が生まれたと示したのです。彼らはいわゆる「異教徒」のすべてとすべての時代の不信仰者を現します。私たちの多くは確信においてまったく真摯で、正しい生活を送り、正義と他者への奉仕の深い感覚を有し、家庭生活の模範であり、職業的義務を見事に果たしていますが、言葉の強い意味においてイエス・キリストを知りません。御公現はイエスを知らない人たち、私たちと信仰が違うが、神が愛し心を照らし、ご自身へ、恵みへと引き寄せるすべての人のお祝いです。

キリストの足元に来た最初の異邦人は、キリストの神秘体、すなわち教会へと代々にわたって着実に流れる、諸民族と異邦人の長い流れの中で最初の人でした。私たちはこの流れの一部となる特権をもっています。神の恵みによって、自分自身の功德によらず私たちはキリスト者であり、天国への道にいます。「喜び、耐え忍べ」と聖パウロは今日私たちに助言します。私たちが本当に喜ぶとき、それは私たちに真の信仰という贈り物の意味が本当にわかっているということです。私たちはどこからやって来てどこに行くのかを知っています。そして私たちは行くべき場所、すばらしい永遠の場所があることを確信しています。またそこへの行き方も知っています。

わたしたちは与えられた大きな特権の意味を知っているので喜ぶことが出来るのです。そしてその意味がわかるならその指し示す道に従うために、しっかりと結びつくでしょう。私たちは丘や険しい坂道を上り、ベツレヘムに向かう途中の占星術の学者たちのような宗教的指導者に会おうか見知りません。占星術の学者を模範とし、ベツレヘムへと後に従い、キリストに持っている物のすべてと自分自身を捧げるべきです。キリストは私たちの捧げものを受け入れ、私たちは別の道を、より賢明なより良い民となって帰るのです。

今日、神に異邦人の私たちが神の国、教会へと召され、天国に達する手段を与えられていることを感謝しましょう。神がどれほど自分たちに優しいかをしばしば忘れた旧約の選民を真似しないようにしましょう。地上にいる間の短い期間に私がどんなに苦しまなければならないとしても、神は「神の栄光が永遠に輝く」私の真の家、天国に私が不信仰ゆえに締め出されることをお許しにならないでしょう。

(Beatrice)

年間第2主日(A)

(ヨハネ1:29~34)

『見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ』

本日から年間の季節が始まります。本日の朗読は、イエスはどなたであり、イエスの使命は何であるかを語っています。イエスの真の弟子になりたいならば、イエスはどなたであり、イエスの使命は何であるかを知る必要があります。弟子とは教師を知り、理解し、一心に従う人です。よい弟子は教師のよい知らせを宣伝する使徒です。本日の福音で、洗礼者ヨハネは証人としての役割を全うし、イエスが世の罪を取り除く神の小羊であると宣言したのを知ります。小羊はやさしさ、犠牲、勝利のシンボルです。小羊は害のない動物、非常に無邪気で屠殺しようと挙げた手を舐めさえずるといわれています。イエスはやさしく、謙虚で、真に心から柔和です。本日の福音と関連する第一朗読は、神の神秘的な召使いについて語っています。神ご自身が永遠から選び出し、使命に送り出します。その生涯は過去の偉大な姿を要約していますが、その使命は未来にあります。

本日の朗読箇所は、もしイエスの弟子になりたいならば、まずイエスは自分にとって本当に誰なのかを見つけ出さなければならないと教えています。神の子羊であるイエスは、独特なやり方で神と人類を結びつけます。ペトロと弟子たちはイエスを神の息子と考え、彼のうちに安全と永遠の生命を見出しました。イエスは彼らの支えであり、力でした。何世紀も、人類は神のやさしく、愛深い御顔を見るためにイエスを眺めました。宇宙の創り主である神は愛情をこめて息子イエスを眺め、イエスのうちに私たちは慈しみ深い神のみ顔を見ます。本日イエスの言葉を黙想し、世界の中にイエスを発見するとき、もしよい弟子になりたいならばイエスの使命は何であるかを知る必要があります。イエスの弟子は皆教師に従う者であり、よい知らせを全ての人に運んでいく宣教師です。キリストの弟子はイエスの福音に従ってだけでなく、他の人がイエスの福音を聞き、受け入れる手伝いをし、また自分の生活の中で実行していきます。キリストの人性の中に光を体験するとき、神のみ顔が全ての人の中に輝いているのを見ます。ご托身において神が全ての人をご自分と結び合わせているということで照らされています。人生がどんな状況であれ、——年齢、体格、姿、富や貧しさ、健康や病気、社会的地位、職能のレベルなど——人生は常によいものであるということで照らされています。それは世界の中で神の顕示であり、現存のしるしであり、神の栄光の足跡であります。

キリストは私たちを天の御父の愛する子供とするためにこの世界に来てくださいました。キリストは私たちが永遠に生きるためにこの世に来てくださいました。私たちのためのご計画をたて、私たちのための使命を持っています。私たちはこの使命を完成するために招かれています。全世界の中で、特に私たちが自分の生命を全うするところで、神の王国を設立するためにイエスをともに働くのを助けてくださいますように祈りましょう。

(Sr. Paulina)

年間第3主日

(マタイ4：12-23)

今日の福音は、イエスが荒れ野で悪魔から誘惑を受け、その後宣教活動を始められた時からのことが語られています。イエスは洗礼者ヨハネがヘロデ王によって捕えられたと聞いてガリラヤに退かれました。ガリラヤは異邦人が何度も支配したこともあった様ですが、イエスが活動された時代には、再びイスラエルの地域になっていました。

イエスの宣教活動の初めが、イスラエルの政治的・宗教的中心、エルサレムではなく、いわばイスラエル最果ての地、異邦の地に隣接する様な異邦の色彩の強いガリラヤから始められたことは、神の救いがエルサレムから遠く離れた、忘れ去られた様な人々にももたらされるもの、神の救いが異邦へも広がってゆく、全世界へと広がっていくことを暗示していることを、思い起こさせてくれます。そして福音書は、イエスがガリラヤにおられるのは、イザヤの預言の実現であると述べて旧約聖書の個所を引用しています。

今日の個所では、ガリラヤの語が4回使われています。ガリラヤ、異邦人のガリラヤ、ガリラヤ湖、ガリラヤ中…しばし私たちの目・心をそこに留めても良いかも知れません。

イエスが弟子たちをお呼びになったのは、ガリラヤからでした。イエスをご覧になり、そして「わたしについて来なさい…」と呼びかけをなさり、呼びかけられた人たちは、「…従った…」とあります。そしてこの場面だけでなく、ガリラヤ中を巡り回られて、福音を告げ、人々の病気や患いを癒されたとあります。どれほど精力的に活動なさり、そして神の不思議な業が行われた、現れたのでしょうか。人々は感嘆、感激で多くの人が神に立ち返ったのでしょうか。

イエスの宣教活動の初めの姿を思い巡らし、私たちのところにも長い時間を経た後に、福音が伝わって来たことを思い巡らしては如何でしょうか。救いの広がりや、後の時代、極東の日本にまで広まって、今の私たちがあるわけです。

私たちもイエスの言葉に耳を傾け、「悔い改め」て、イエスに「従って」ゆけます様に、互いに祈りあいながら、ともに願いながら、ご一緒に歩んでゆければと思います。

(Fr. 古川利雅)

年 間 第 4 主 日 A (マタイ5:1-12)

心の貧しい人々は、幸いである、天の国は、その人たちのものである

今日の福音はマタイによるイエスの山上の説教です。これはイエスキリストに従って生きる人、キリスト者の倫理的な教えであり、キリスト者の生活の真髄とも言えるものです。イエスはこの山上のお説教を通してわたしたちに至福（真の幸い、天的な喜び）をお与えになります。聖書が記す山は神が現存される聖なる場所を示しています。ここでイエスはこの世の価値観とは全く反対の概念を持つ真の幸せを説き明かしてくださいます。この幸せはわたしたちが自ら創りだせるものであり、わたしたち自身がその喜びとなって周りの人々に沈黙のうちに伝播し、多くの人々を巻き込んで共に天の国を受け継ぐ者となっていくようイエスは望み、教えていらっしゃいます。

今日の福音はイエスが弟子たちに述べられた講話の一つ、山上の説教です。八つの至福（真の幸せ）を一連としたこのお説教は、イエスに従って生きることを旨とするキリスト者の理想的な在り方を説いています。マタイはイエスを神のメッセージを宣言する新しいモーセと披露します。事実山上の説教は、マタイ福音書の中の五つの講話の最初のもので、イエスが弟子たちに期待する人間性に焦点を当てた日常的な真理を簡潔に示すことわざや教えを集めたものです。宗教的に見ると至福は、Blessed（祝福された）と言う形容詞で始まる何かを暗示する雰囲気での声明で、光栄ある幸せな環境にある特定の人々を宣言しています。この幸いな人々はモーセの十戒の要求する道徳的な生き方をはるかに超えた、人間としての豊かな資質と霊的な深みを持っている人たちです。

ここで注意すべきことは、十戒がユダヤ教の人々の生活の真髄であり、従うべき律法であるのと同様に、至福がキリスト者の生活の真髄であるということです。多くの場合、至福がキリスト者を理想の生活に導くものであることは無視され、十戒がそれに代わるものと見做されています。十戒は内的な心の思いを抜きにした規範です。至福は掟ではなく、守るべき規律と言うより心の深みの姿勢です。これを遵守することは神と人々への愛を持つことによるのみ可能です。これで十分という到達点はなく、常により高い深みへと導かれるものです。決して自己満足することはありません。聖書の金持ちの青年がイエスに言ったこと、若いときからずっと十戒の全てを守ってきたということを至福であるとは誰も言うことはできません。至福は神の国の感覚で理解されるものでしょう。神の国は場所ではなく、それは神と神を自分の主として生きている人たち、また神を自分の生活の指導者として全面的に受け入れている人たちとの間に存在する様々の関わりです。ですから神の国で真の幸せに在る人たちは、裕福で成功を収めた力ある人ではなく、不平をつぶやかず現在の状態に満足している謙遜な人たちなのです。

イエスは宣教を始めるに当たり、イエスの価値観がこの世のものとはいかに異なるかを示し、神の国の人となるための新しい聖なる教えをお与えになりました。

(Sr. Paulina)

糸巻き棒からペンへ(16)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え



エドゥアルド・サンス OCD

中東のさまざまな国々では、女性たちは姦通のため石で打ち殺され、女性を殺害することは、この星の多くの地域に広がっています。

けれども、必ずしもすべての人が、このような振る舞いの深刻さに気づく感性を持っているわけではありません。それらの行為を正常であると見なす人々や、特定の文化の表明として正当化する人々さえいます。女性の状況は、他の時代と現代とでそれほど大きく異なっていないということ、また社会や教会における権利の同等性が実際に実現するためには、まだ多くのことが欠けているということ、私たちは忘れてはならないでしょう。

これらのことが、ある地域では常習的になっているにしても、正常ではないことを、私たちが理解するに至ったとしたならば、それは、多くの女性が行なってきた意見の表明のおかげであり、職業に関し、社会が否定してきた機会均等性を獲得するための闘いがあったおかげです。彼女たちの中に、テレジアは、そのメッセージの深さにおいても、その先駆けとしても、特別な場を占めています。

実際、女性は、絶えず父親や夫、男の兄弟たちの保護のもとで、ほとんど物のように見られていました。彼女たちの役目は、家事を切り盛りすること、種を保存すること、夫の性衝動を満足させることであり、夫の意志にまったく従属していました。

例えば、ルイス・デ・レオン修士は、『完全な夫人』という有名な作品において、その序の部分から、女性の使命は、「夫に仕えること、家事を取り仕切ること、子供を育てること」であると、述べています。そして夫に対して行わねばならない奉仕や配慮について説明しながら、こう説いています。「この仕事は、好意とか寛容さではなく、女性が夫にしなければならない、自然本性が女性に課している正当な負債である。この務めのために女性は養育されるべきであり、結婚した相手に喜んで奉仕し、日々の仕事や財産の保持において彼を喜ばせ、支えなくてはならない。…彼が外での苦しみを家に持ち込まざるを得ないならば、彼が帰宅した時、彼女は彼と共に苦しみ、彼を慰めなければならない」(第4章)。

(続く)

遠藤周作著「沈黙」が刊行 50 年ときき驚いています。

長いのかそれともあつという間なのか、半世紀です。

NHK の「こころの時代」にとりあげられているのを見ながら、不意に心の奥からどっとこみ上げてくるものがあり、感慨の激しさに押され、過ぎ去った歳月が鮮やかに甦るようでした。

50 年前、新しく拓かれたこの土地の集合住宅へ引っ越してきました。

長男が小学校、次男が幼稚園、共に入学入園の希望の年でもありました。次男の幼稚園はたまたまですがカトリックでした。そして同じく此処へ新しく入居した大勢の人たちの中に荒井 猷氏がおられ、ご自宅での聖書研究会の案内が、真新しい郵便受けに入ったのです。私はそれにたまたまですが目をとめました。育児の手が離れ時間を得たこともあって、幼稚園では父兄として、荒井先生のところでは、外国の小説をより面白く読みたいとの動機を述べて、カトリックとプロテスタントと同時にキリスト教を学ぶこととなりました。

この頃に、「沈黙」を初めて読みました。今にして思うと、文学の香りと共に心に直接に届いた初めてのキリスト教であったと言えるでしょう。

そうした中で出会ったのが、やはり同じ入居者だった今は亡き M です。

求道の熱き同志であり、やがて親友となり、後に私の代母となりました。

M は全く並ではない読書家であり、私よりも一足先に信徒となってからは、キリスト教遠藤派と自称する遠藤周作の信奉者でもあったのです。私が代母を頼んだ時「本とお酒の代母なら引き受ける」と言ったものです。私達は M が亡くなるまでの 40 年にわたって、読み耽り、語り込み、論じ合い、酌み交わし、濃密な親交をもちました。

やがて幼稚園での縁があって上野毛教会と繋がり、私は指導司祭に恵まれました。そして、自分でも思いもよらなかったのですが、キリストへの志は思わす知らず死にもの狂いとなってゆき、引き寄せられ捕らえられて遂にの邂逅となったのでした。一切を砕かれ無力の果てに新しいいのちを授かりました。行く手には道筋のない新しい世界が広がり尽していました。「始まったものは必ず完成されます」と神父さまは言ってくださいましたが、自分をもってしては何ひとつ思い届くものはなく、神のあわれみだけがたつてでした。この時の再度の「沈黙」は身に苦しく迫り、M と語り語り殉教や憐憫を論じたこと懐かしく思い出されます。深い交わりは時に互いを傷つけ合ったりもしたのですが、それは同時に信頼する力を培い合ったといえます。

この度刊行50年ときき、4度目になる「沈黙」を読みました。

前回からは長い長い年月があり、私は老齢となりました。書棚から取り出して頁を開き、手に触って、思わず目頭が熱くなるような何かが身を満たしました。今回は、前半のロドリゴの書簡、その自然風景の描写に殊の外心が奪われたことは、自分にも意外でありまた新鮮でもありました。

ロドリゴの眼に景色はこのように映ったのかと幾度も読みなぞりつつ、作者遠藤周作の心情をも重ね、またMの面影を迫りつつ思いを深めました。

海や野山、草原、夜空の星、村の灯、雨、飛ぶ鳥、とかげ、などなど……静かな透徹した描写に感情を揺さぶられ、涙ぐむことしばしばでした。また聖書の引用が文語であることは必須条件と、いつも思うことです。そして、読む者の魂までもが暗い深さを孕むような海が存在、海の描写に魅せられます。

何が起ころうとも、たとえ人が死にゆこうとも、全てを受け、底知れぬ暗い深さを見せ続ける海。もしこれを虚無というのなら、それは開いているか閉じているかの違いだけで、もしかしたら神ととても似ているのではないかと思えてなりません。

今回の「沈黙」は、私が年老いたのでしょうか、言いようもなく哀しく、愛おしくあります。若い日の鋭く果敢に感受する力は確かに弱まり、もう丸ごとこの胸に抱きとってしまいたいというのでしょうか。痛苦に涙しつつも全てを「このままでいい」と言いたいです。ある美術作家が「作品の力が弱まってきたことは、自分の方の精神が軽くなってきたことでもある」というのを聞いて、妙に納得したのですが、これは作品の創作だけでなく、享受する側にもある面当てはまるのではないかと思うのです。

遠藤周作をたくさん読んできましたが、作者の誠実さにいつも心打たれます。

誠実としか呼びようがないのですが、人間としての誠実さ、魂の誠実さは私の魂への深い問いかけとなって届きます。深い問いかけは更には祈りとなって私を温め支えます。

「沈黙」は、私の生涯で最も大切な小説のひとつであるのです。

いのちの言葉 1月

キリストの愛がわたしたちを駆り立てているからです。

(ニコリント 5.14-20)

「昨日の夜、僕はお母さんの友達と一緒に外でご飯を食べました。おかずにグリンピースを注文して、その後大好きなデザートを食べたいと思いましたが、お母さんは『ダメよ』と言いました。ふくれっ面になるところだったけど、イエス様がお母さんのそばにおられるのを思い出して、微笑みました」

「今日はすごく大変な一日で、疲れて家に帰りテレビを見ていたら、お兄ちゃんが僕の手からリモコンを取り上げました。僕はとても腹がたったけど、できるだけ落ち着いて、お兄ちゃんが好きな番組を見られるようにしました」

「今日お父さんが何か言った時、私はちゃんと返事をしませんでした。お父さんの顔を見ると、あまりうれしそうではなかったので、お父さんに『ごめんなさい』と言うと、父さんは私のことをゆるしてくれました」

これらはローマの小学5年生の子供たちが話してくれた命の言葉の経験です。経験と、その月の命の言葉とすぐにはつながらないかもしれませんが、これらはまさしく命の言葉を生きた実りに他なりません。

どのみ言葉を生きようと、その実りはいつも同じです。愛に駆り立ててくれるからです。私たちの生き方を変え、他の人が必要としていることに注意を払うよう私たちの心押し動かし、兄弟姉妹のために生きるようにしてくれます。

み言葉を受け入れて生きるとき、私たちの中にイエスが生まれ、私たちもイエスのように生きるようになります。それこそが私たちのなかに働くことなのです。パウロがコリントの人たちに宛てた手紙を読めば、それが明らかです。

福音を告げ知らせ、共同体の一致のために努力するよう使徒パウロを押し動かしていたのは、イエスと生きた深い経験でした。パウロはイエスに愛され、救われたと感じ、何も、誰も、自分をイエスから切り離すことはできないところまで、彼はイエスの生活の中に入ったのです。もはやパウロが生きていたのではなく、イエスが彼の内に生きていました。神は命を与えるほど、自分のことを愛されたと思うと、彼は気が狂いそうになり、心が穏やかではなくなり、同じように他の人を愛する衝動にかられました。

私たちのうちにも、キリストの愛がこのように激しく燃えているのでしょうか？

もし私たちが本当に神の愛を経験したのなら、私たちは同じように他の人を愛し、勇気を出して、分裂や争い、憎しみのあるところに行き、調和、平和、一致をもたらさずにはいられないでしょう。愛は私たちが障害を乗り越え、理解と交わりを通して人々と真の関係を築かせ、私たちは共に解決策を見いだすことができます。このような生き方は、それを選ぶか選ばないかという問題ではありません。一致を築くためには、慎重になりすぎたり、困難や争いによってさえぎられないための大いなる努力が必要とされます。

一致は特にエキュメニズムの分野で要求されます。この命の言葉が選ばれたのは、この1月に一致祈禱週間があるからです。諸キリスト教会の共同体の信徒がこのみ言葉を生きるためです。皆がキリストに駆り立てられ、お互いに心を通わせながら、一致を築いていくためです。

「神様の愛と同じ愛をもって、他の人を愛する人だけが、和解を生きる真のキリスト者だと言えるでしょう。それは、相手の中にキリストを見る愛、全ての人に向けられる愛です。

（イエスは全ての人のために死んで下さったのです）また、いつも自分の方から先に愛し、相手を自分と同じように愛し、苦しみにおいても喜びにおいても、兄弟と自分を一つにする愛です。

そして教会も、このような愛をもって、愛するよう招かれています。」とキアラはヨーロッパエキュメニズム総会で語りました。（1997年6月26日、オーストリアのグラーツにて）

私たちもローマの小学生のように、シンプルかつ真剣に愛に徹して生きたいものです。

ファビオ・チャルディ神父

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

いのちの言葉の集い

関東 1月8日（日）13:30～ カトリック藤沢教会（神奈川）204号室

（週日に吉祥寺・鷺沼・戸塚・厚木・千葉・浦和・鹿沼でも）

関西 1月15日（日）13:30～ 大阪カトリック香里教会

▶詳細は各フォコラーレセンターまで。

連絡先：フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: conil157ch1.wix.com/focolare-jp

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

2016年12月3日

三位一体の聖エリザベトに関して、二つの大会が開催される

昨年11月には、テレジア的カルメル会にとって記憶に残るいくつかの出来事が行われました。

11月19日には、フランスのアヴィニオンでマリー=ユージェヌ神父, O.C.D. が列福されました。これには、跣足カルメル修道会総長が多くの修道者とともに出席し、盛大な式典が執り行われました。そして三位一体のエリザベト列聖という出来事は、アヴィラのCITeS (カルメル国際テレジア神秘神学大学)、とローマのテレジアヌム (カルメル会国際神学校) での二つの重要な大会もたらしました。

まず11月10日～13日に、CITeS神秘主義大学で開かれた大会では、三位一体の聖エリザベトの思想と教え、感性の単純さと深さが取り上げられ、100人を超える聴衆を啓発しました。この模様は、インターネット上のオンラインで送信され、それによって、スペイン、コスタリカ、パナマ、アメリカ合衆国、アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、コロンビア、ヴェネズエラ、モロッコ、レバノン、ポルトガル、チェコ共和国など多くの国々の約80人のカルメル会修道女たちが、自分たちの修道院で身近にこの会議を視聴することができました。

他方、テレジアヌムでも、11月22日から23日にかけて大会が開催され、多くの人々が参加しました。そこでは、この新しい聖人の歴史的背景が浮き彫りにされ、その霊的生涯の概要が紹介されました。その後、聖女の教えの基本的な要素である、聖パウロ、キリスト論、三位一体論的霊性について講演がありました。大会のフィナーレには、ヴァチカンの列聖省長官、アンジェロ・アマト枢機卿の司式によって、テレジアヌムの聖堂で聖体祭儀が献げられました。

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< **Communications** (時事通信) >>

03//12//2016

Meeting of the European Conference of Provincials

Between the 7th and 11th November the European Conference of Provincials met in Linz, Austria. Taking part at the meeting were the Major Superiors of the various European areas of jurisdiction together with Fr Agustí Borrell, the Vicar General and Fr Lukasz Kansy, the second Definitor General.

During the first day, the Superiors reflected on dependence on the internet, assisted by Fr Giovanni Cucci, s.j. This is an argument of enormous pertinence in our time involving, as it does, not only religious in formation but also adults.

On the morning of 9th November, Fr Agustí Borrell gave a presentation on the situation of the Teresian Carmel in Europe as well as the progress of the re-reading of Constitutions, of great worth at this time of crisis, as we seek to invigorate our own identity as Carmelites.

The same day, in the evening, Fr Lukasz Kansy presented to the assembly a proposal from Fr General: to set up a year in the Salamanca monastery (Spain), together with an adequate community, for the European students in formation. This has the purpose of deepening knowledge of our patrimony of the Teresian charism, as well as assimilating the fundamental elements of our spirituality. The proposal will be studied in the provincial seats so that dialogue on the subject with the General Government can be continued.

On the 10th, the delegates were able to enjoy a day of rest and fraternal sharing by visiting the city of Vienna, and on the morning of the 11th they returned home.

福者マリー・エウジェンヌ神父に導かれて

十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従信子 編・訳

Selon Bienheureux
LE PÈRE MARIE-EUGÈNE
DE L'ENFANT JÉSUS

聖母文庫

11月下旬発売予定!

マリー・エウジェンヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる いのりの道

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 207頁

わたしは神をみたい

いのりの道をゆく

マリー・エウジェンヌ神父とともに

伊従信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁

祝

列福を祝って…!!

福者マリー・エウジェンヌ神父

2016年11月19日

◆11月19日(土) 列福式: フランス・アヴィニオンにて

◆12月10日(土) 列福記念ミサ(予定): 東京上野毛教会にて
-カルメル会・ノートルダム・ド・ヴィ共催-

福者マリー・エウジェンヌ神父に導かれて

十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195 【聖母文庫】

定価**540**円(税込)



ご注文
承り中



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

上野毛霊性センター 2017年4月～2018年3月

黙想企画 **上野毛聖テレジア修道院(黙想)**

1. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。
2017年 4月13日(木)夕食～16日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2017年12月24日(日)～25日(月)朝食《講話なし、夕食なし》

2. 日帰り一日黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

2017年

4/6 (木)、4/28 (金)、5/12 (金)、5/25 (木)、6/15 (木)、
6/30 (金)、7/7 (金)、7/20 (木)、9/21 (木)、10/27 (金)
11/10 (金)、11/30 (木)、12/7 (木)、12/22 (金)、

2018年

1/11 (木)、1/26 (金)、2/8 (木)、2/23 (金)、3/8 (木)、3/23 (金)

*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

3. 奉獻生活者のための黙想会

2017年

8月 1日 (火) 17時～	8月10日 (木) 朝	福田正範神父
8月16日 (水) 17時～	8月25日 (金) 朝	福田正範神父
12月27日 (水) 17時～	2018年1月5日 (金) 朝	福田正範神父

4. 奉獻生活者ならびに一般信徒のための黙想会

2017年

10月10日 (火) 17時～	10月19日 (木) 朝	福田正範神父
-----------------	--------------	--------

5. 青年黙想会(男女) 35歳位まで

2017年

4月22日(土) 16時～23日(日) 16時

カルメル会士

2018年

2月10日(土) 16時～12日(月) 16時

カルメル会士

6. 召命黙想会(男女) 40歳位まで

2017年

11月3日(金) 16時～5日(日) 16時

カルメル会士

7. 四旬節黙想会(テーマ:ゆるしの喜び)

2017年

3月18日(土) 18時夕食～20日(月) 16時

福田正範神父

8. 特別黙想会

S r. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2017年

12月8日(金) 20時～10日(日) 16時

- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

[Tel:03-5706-7355](tel:03-5706-7355) Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

*****日帰り黙想会*****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニムは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように…。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

*企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時：	2017年	1月12日(木)	午後1時30分～午後4時
		1月27日(金)	〃
		2月9日(木)	〃
		2月24日(金)	〃
		3月9日(金)	〃
		3月24日(金)	〃



お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789 Eメール:

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしくお願いたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：7205805
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：56845391
名義：男子跣足カルメル修道会

男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大室 4-5-17
Tel：052-571-1558 Fax：052-681-6445

《2017年 名古屋一日静修》

三位一体の聖エリザベトの祈り

—現代人へのメッセージ—

1. 日時：1月21日（土）午前10時～午後4時
「神は私の内に 私は神の内に」 九里 彰 神父
場所：カトリック日比野教会 信徒会館
(地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約5分)
2. 参加費：1000円
3. 持ち物：聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当
4. プログラム
10:00 導入の祈り（聖堂）
10:20 第一講話（信徒会館）
11:30 念祷 ① 赦しの秘跡または面接
12:00 昼食（信徒会館）
12:30 念祷 ② 赦しの秘跡または面接
13:00 第二講話
14:00 念祷
14:30 ミサ（聖堂）
15:30 茶話会（信徒会館）
16:00 終了の祈り
5. 申し込み：下記いずれかの方法でお申込み下さい。
FAX / 0568 - 62 - 5167
-mail / seisyuu_2015@yahoo.co.jp
ハガキ / 〒484-0076 犬山市橋爪一丁田 1-26
「名古屋一日静修」係り

～2017年度 日程と講師～

- | | |
|-----------|------------------|
| 3月20日（月） | 古川利雅神父 |
| 5月20日（土） | 須沢かおり氏 |
| 7月17日（月） | 松田浩一神父 |
| 9月23日（土） | 片山はるひ氏 |
| 11月25日（土） | Sr. ポーリン・フェルナンデス |

霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語り、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願ひ致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2017年予定

T1	03/12 (日) -03/18 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
K2	03/27 (日) -04/01 (土)	東京小金井・聖霊会
N1	05/07 (日) -05/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
K2	06/11 (日) -06/17 (土)	東京小金井・聖霊会
T2	07/02 (日) -07/08 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
T3	09/03 (日) -09/09 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
N2	10/10 (火) -10/16 (月)	滋賀唐崎・ノートルダム
K3	11/05 (日) -11/11 (土)	東京小金井・聖霊会
T4	12/03 (日) -12/09 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ

2018年予定

K1	05/06 (日) -05/12 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
K2	10/07 (日) -10/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム

真命山

祈りの集い

年間のテーマ

山上の教え

2017



年度行事のご案内

祈りの集い(10時～15:00時)

- 1月12日 幸せの道・イエスの山上の垂訓 (マタイ5:7)
- 2月9日 心の貧しい人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。(マタイ5:3)
- 3月9日 柔和な人々は、幸せである、その人たちは地を受け継ぐ。(マタイ5:4)
- 4月20日 悲しむ人々は、幸せである、その人たちは慰められる。(マタイ5:5)
- 5月11日 義に飢え渴く人々は、幸せである、その人たちは満たされる。(マタイ5:6)
- 6月8日 憐れみ深い人々は、幸せである、その人たちは憐れみを受ける。(マタイ5:7)
- 7月13日 心の清い人々は、幸せである、その人たちは神を見る。(マタイ5:8)
- 8月 休み
- 9月14日 平和を実現する人々は、幸せである。その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイ5:9)
- 10月12日 義のために迫害される人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。(マタイ5:10)
- 11月9日 幸いなのは、神の言葉を聞き、それを守る人たちである。(ルカ11:27～28)
- 12月14日 見ないのに信する者は、幸いである。(ヨハネ20:29)

指導者 12:00 神父

✚ 個人またはグループでの黙想会

研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町崎浦 1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心のテーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー 下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2016年度:倫理と霊性の基礎づけⅡ近代・現代
冬学期:10/1, 10/8, 10/15, 10/22, 10/29, 11/5
11/12, 11/26, 12/3, 12/17
2017/1/7, 1/14, 1/21, 1/28

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kulturl-Haus 1階右テレジア小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」 毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月9日、12月27日は休み。
8月23日は、上智大学内 Kulturl-Haus 2F 聖堂。
・「お昼の黙想」 毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月2日、11月1日は休み。
・「水曜日ミサ後の黙想」 18時～18時30分 上智大学内 Kulturl-Haus 1階右、テレジア小聖堂。
どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

・「黙想会」

6月18日(土)10時～19日(日)14時(上石神井)、11月19日(土)～20日(日)(上石神井)、2017年2月18日(土)～19日(日)(上石神井)、1泊2日、7,000円位。申込の締切は、初日の8日前。
[関西] 9月24日(土)13時30分～25日(日)15時(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中)。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。
2016年
10月1日、11月12日、12月3日
2017年
1月14日、2月25日、3月11日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・月曜日、木曜日 17時45分～20時10分
上智大学内 Kulturl-Haus 1階左の部屋。3回坐り、間に講話。(祝日、5月2日、8月全体、10月31日、12月26、29日は休み)

●坐禅接心

10月30日(日) 20時20分～11月3日(木) 8時30分
秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。
事前申込み要。

[関西]

宝塚黙想の家。事前の申込み要。
Tel.0797-84-7863. (Sr.田中)

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。
2017年1月29日(日)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2016-17年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 11/4 父と子と聖霊— 神の生命に与る
 11/11 信仰の決断— 支えられて生きる
 11/18 ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧
 11/19-20 ●黙想会(上石神井)
 11/25 自己実現と神の意志— 生き方の規範
 12/2 人間の弱さ— 罪とは何か
 12/9 恵みとゆるし— 神の憐みを受ける
 12/10 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17:30
 パーティ、岐部ホール4階404,要申込み)
 12/16 愛の心— キリスト教の本質
 12/23 ◆クリスマスミサ(14時、上智大学内ク
 ルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
 12/25 ●クリスマス黙想(18時50分-20時10
 分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂、予定)
 1/6 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う
 1/13 希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む
 1/20 霊の動き— 福音による生き方
 1/27 秘跡と教会生活— 毎日を支える信仰
 2/3 神の言葉— 神との日常的な対話と黙想
 の仕方
 2/10 結婚と独身— 愛の道
 2/17 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている
 2/18-19●黙想会(上石神井)
 2/24 仕事という人間の課題— 社会と教会に寄
 与して働く
 3/3 人間の苦悩— 悪とは何のためか
 3/10 死— その受け入れと克服
 3/17 人生の完成— 神の内に生きる
 3/24 聖母マリア— 信じる者の原型
 3/31 限りのない救い— 匿名のキリスト
 4/16 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内ク
 ルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)

キリスト教理解講座 2016-17年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [聖霊]
 12/6 神の内的現存— 人間における聖霊の働き
 12/10 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分
 パーティ、岐部ホール4階404,要申込み)
 12/20 三位一体の神— 救いの構造から神内
 の存在へ
 12/23 ◆クリスマスミサ(14時、クルトゥルハイム2
 階聖堂、定員80人)
 12/25 ◆クリスマス黙想(18時50分-20時10
 分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂)
 [教会]
 1/17 信仰者の共同体— 教会の本質
 1/31 救いのしるしと実現— 秘跡の意味
 2/18-19 ●黙想会(上石神井)
 2/21 「聖徒の交わり」— 世界の只中のクリ
 スト
 3/7 人間と世界の究極の未来— 終末の
 約束
 3/21 信仰者の原型— 聖書に見られるイエ
 スの母
 4/16 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内ク
 ルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

講話と祈りの集い

四ツ谷 Week End Emao
上智大学 2号館1階 カトリックセンター
1月28日（土）午後2時～午後5時30分
担当 片山はるひ



2016年4月より 毎回、
テキスト『神と親しく生きるいのちの道
幼きイエスのマリー・エウジェヌ師とともに』
（聖母文庫 本体500円＋税）を用いて、
講話をすすめています。



上石神井
2月25日（土）午後2時～午後5時30分
担当：片山はるひ
講話・祈り・質問・分かち合い
参加費 200円
テキストはありません。

お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

『片山はるひ宛』でお願います。

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・・開始日の 8 日前で締切ります

コース	日時	指導者	開催場所	申込み
サダナ I	2/9(木) 9:30- 2/11(日)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	若山美知子※ Tel&Fax 03-5918-9870
フォロー アップ	2/26(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
サダナ II	3/16(木) 9:30- 3/20(日)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門 A. B. C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II

I をいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ

サダナ I を終えた方。

◆入門 C

入門 A または入門 B を終えた方。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2017年 5月 6日(土)～ 5月14日(日)
- ② 8月14日(月)～ 8月22日(火)
- ③ 10月 9日(月)～ 10月17日(火)
- ④ 12月27日(水)～ 2018年1月 4日(木)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2017年 2月 3日(金)～ 2月5日(日)
- ② 2月24日(金)～ 2月26日(日)
- ③ 3月17日(金)～ 3月19日(日)
- ④ 6月16日(金)～ 6月18日(日)
- ⑤ 7月14日(金)～ 7月16日(日)
- ⑥ 9月15日(金)～ 9月17日(日)
- ⑦ 11月17日(金)～11月19日(日)

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2017年 5月30日(火)～6月7日(水) 阿部 仲麻呂 師（サレジオ会）

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

神のいつくしみを生きる

2016年度 青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	5月21日(土)～22日(日)	闇と光	山内十束師(ご受難会)
2	7月9日(土)～10日(日)	冬と春	山内十束師(ご受難会)
3	11月12日(土)～13日(日)	絶望と希望	山内十束師(ご受難会)
4	2月18日(土)～19日(日)	罪と恵み	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

神のいつくしみを生きる

—罪と恵み—

2016年度 第3回 青年黙想会

日時： 2月18日 (土) 15:00 ~

19日 (日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2017年2月12日 (日) まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

【2016年予定】

—12月15日(木)『霊の賛歌』第5回目：第3の歌— 終了

【2017年予定】

1月19日(木)『霊の賛歌』第6回目：第4～5の歌
3月16日(木)『霊の賛歌』第7回目：第6の歌
5月25日(木)『霊の賛歌』第8回目：第7の歌
7月20日(木)『霊の賛歌』第9回目：第8の歌
9月21日(木)『霊の賛歌』第10回目：第9の歌
11月16日(木)『霊の賛歌』第11回目：第10の歌
12月21日(木)『霊の賛歌』第12回目：第11の歌

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原



九里彰神父（カルメル会日本管区長）

<<特別黙想会>>

日時：2016年12月17日(土) 4時半受付～18日(日) 午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「神のいつくしみに気づく」

指導司祭：九里彰神父

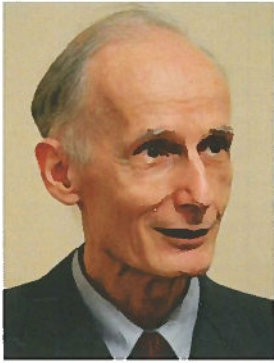
申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論	定価(本体+税)
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想	
	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質	
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論	
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓けて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践	
	信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学の人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

http://www.chisen.co.jp

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171 Fax: 03-3704-1789

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google: 「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

初夢に見ると縁起が良いとされるものに、「一富士二鷹三茄子」がある。徳川家康が見た夢だとか、駿河の名物を挙げたのだとか、諸説があるようであるが、皆高いもの（鷹は高、初物の茄子は高い）である。だが、これらは皆、この世のもの…。高いものへの憧れに、聖性への憧れが含まれているのかは、定かではない。

聖書の世界では、夢の中に神や天使が現れる。夢は、潜在意識の表面化にすぎないと、現代心理学は、あくまでも人間の意識の枠内に留めているが、信仰の世界では、単なる人間の意識を超え、神が人と交わる神秘の領域を意味している。

元旦早々、天使ガブリエルが現れて、「おめでとう」と告げられても困るが、夢の中にマリアさまやキリストが現れてくるとすれば、その人の信仰は、かなり深いものかもしれない。病気の可能性も否定できないが…

因みに、「一富士二鷹三茄子」の続きは、「四扇、五煙草、六座頭」だそうで、扇は末広がり（子孫繁栄）、煙は上にあがるので、縁起がよい（愛煙家は狂喜しそう）。しかし、最後の座頭はいただけない。琵琶法師の頭ことで、毛がない（「怪我ない」）ゆえに安全という駄洒落だそうである。毛が少なくなってきた者にとっては実に心外である。

(P.九里)



製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「2月号」製本日

1月31日(火) 上野毛教会信徒会館ホール 1階

午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171